

第3章

土木未来プロジェクト

- 1 豪雨災害対策
- 2 南海トラフ巨大地震対策
- 3 「九州の東の玄関口」の強化
- 4 大分都市圏交通円滑化対策
- 5 道路空間の再生(リボーン)
- 6 屋内スポーツ施設の建設
- 7 社会資本の集中的メンテナンス
- 8 建設産業の魅力発信

1 豪雨災害対策

玉来ダムの早期整備による治水効果の発現

H27年度に転流トンネルが完成。現在、上流仮締切堤、工事用道路を施工しています
H28年度中のダム本体工事着手に向けて準備を進めています。



玉来ダム完成予想図



現在の状況（H28，7時点）

転流トンネル呑口

玉来ダム諸元

型 式：重力式コンクリートダム
（流水型）
堤 高：52.0m
堤 頂 長：145.0m
堤 体 積：128,250m³
総貯水容量：409万m³

土砂災害警戒区域等の指定を加速し、警戒避難体制を早期構築

- ・ 県内の土砂災害危険箇所は約2万箇所と多く、土砂災害警戒区域の指定による警戒避難体制の構築が急務となっています。このため、指定に向けた基礎調査の予算・人員を増強し、平成31年度までの完了を目指しています。
- ・ また、土砂災害警戒区域指定後の市町村による土砂災害ハザードマップの作成を支援するため、作成支援ソフトを開発し、平成28年8月18日（木）より運用開始しました。今後は市町村への操作説明会を開催するなど、ソフトの活用によるハザードマップ作成を促進し、警戒避難体制の充実・強化を図ります。



ハザードマップ作成支援ソフト

インターネットを介して土砂災害警戒区域と避難所・避難路等を合成し、短時間で容易にハザードマップ作成を可能にしたもの。
（H28年8月運用開始）

【作成支援ソフト操作説明会】

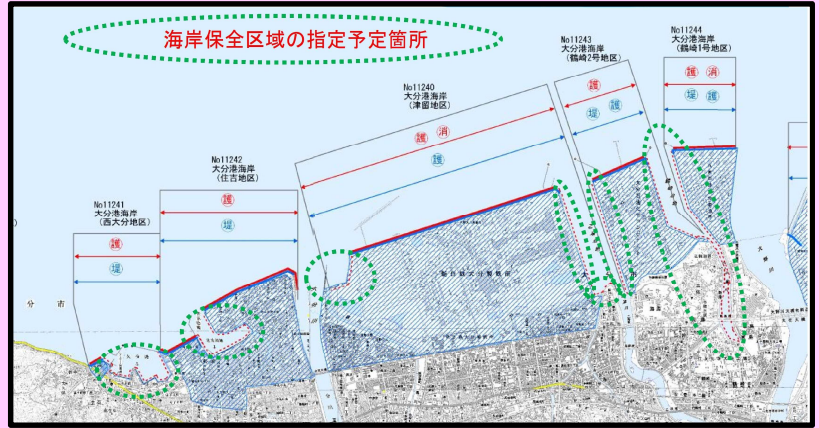
2 南海トラフ巨大地震対策

護岸の耐震化や強化による大分臨海部コンビナートの強靱化

切迫する南海トラフ巨大地震・津波による大分臨海部への甚大な被害を最小化し、地域住民の生命・財産保護と企業活動を維持するため大分臨海部の防護機能の強化を早期に図る必要があります。

平成28年度は、護岸等の整備が必要な箇所について、海岸保全区域を指定作業中です。

また、国・県を事務局とした「大分港海岸護岸整備技術検討部会」を開催し、専門家の意見を聞きながら、高潮や津波に対する効率的、効果的な防護方法の検討を進めています。(平成27年度に4回実施。今年度は、第一回目を平成28年8月17日に開催)



「第一回大分港海岸護岸整備技術検討部会」の様子(平成28年8月17日)

最優先啓開ルートの橋梁耐震化・法面崩壊対策

- ・ 公的機関・災害拠点病院等の広域的な防災拠点や救命活動に係る重要拠点を結ぶ「最優先啓開ルート」において、平成30年度までに道路法面崩壊対策を、平成31年度までに橋梁の耐震化を完了することを目標としています。本年度は別府湯布院線外、3箇所の道路法面対策工事と、大分大分港線大分大橋外、10橋の橋梁の耐震化工事を実施します。

《道路法面崩壊対策》別府一の宮線(由布市湯布院町川上)



《対策前》



《対策後(イメージ)》

《橋梁耐震化工事》



《イメージ》

道路啓開の確実な取り組み

- ・ 大地震等により救命・救援活動を支える緊急輸送体制を早期に確保するための「道路啓開」を行うにあたり、「だれが、どこで、いつまでに、どのようにして」といった活動手順を具体的に定めた地区別実施計画を策定し、道路啓開の確実な実施に向けた取組を進めます。
- ・ 本年度は、大分、別府、国東、中津、宇佐、豊後高田地区の計画を策定します。

3 「九州の東の玄関口」の強化

大分県は、九州と本州・四国との間を結ぶフェリーの約8割が発着しており、海路と九州各県を循環する陸路（高速道路）の結節点となることから、人の流れ、ものの流れの拠点として大きな可能性を有しています。九州の東の玄関口という地理的優位性を生かし、人・物の流れを活性化させ、観光や産業振興を図ります。

拠点化に向けた港湾の整備

- ・大分港大在地区

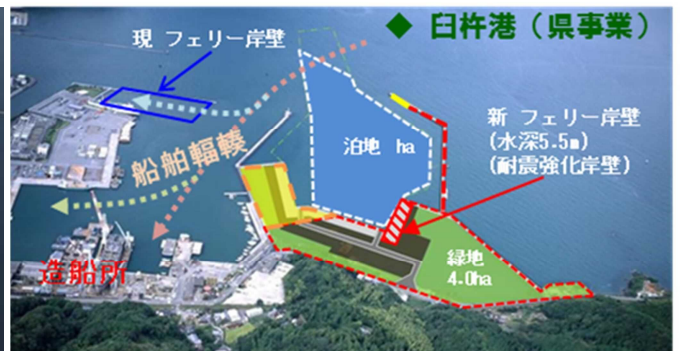
平成28年10月からの新規RORO船の就航に備え、埠頭用地の造成を行っています。

- ・臼杵港下り松地区

新フェリーターミナルの整備及び、緊急物資受け入れのための耐震岸壁の整備を行います。



大分港(大在地区)



臼杵港

地域高規格道路の早期整備

- ・東九州自動車道・宇佐別府道路・大分空港道路

大分空港道路については、平成28年度から日出IC～安岐IC間の一部区間で4車線区間延伸に事業着手しました。

- ・中九州横断道路

朝地～竹田間は平成30年度の開通を目標に整備促進を、竹田～阿蘇間は早期事業化を目指し調査促進を、それぞれ推進します。

- ・中津日田道路

現在約2.6kmの区間（三光本耶馬溪道路、耶馬溪道路、日田山国道路）で整備を推進しています。



竹田までの整備が進む中九州横断道路



日田に向かって整備が進む中津日田道路

4 大分都市圏交通円滑化対策

(都)庄の原佐野線

大分市の中心市街地から東部地区間では自動車交通量が多く、交差点や大分川架橋部では慢性的に渋滞が発生しています。このため、平成20年度から大分川を渡河する元町・下郡工区の事業を進めております。

今年度は、新大分川架橋（仮称）の工事を引き続き実施します。また、国道10号と立体交差する橋梁の下部工等にも着手し、平成29年度の開通を目指して、整備を進めていきます。



国道197号（鶴崎拡幅）

大分市の志村～乙津間は自動車交通量が多く、大野川を渡る橋梁部などでも2車線しかなく、慢性的な渋滞が発生しています。

このため、平成27年度から4車線化の事業に着手しました。まずは、乙津工区の整備を優先し、整備を進めていきます。



大分市東部のボトルネック

国道442号（宗方拡幅）

大分市の宗方・植田地区では、交通量が多く、沿線には商業施設が多く立地していますが、歩道が狭く途切れた区間もあり、交通安全対策が課題となっています。

このため、平成26年度から一部4車線化と歩道設置の事業に着手しました。平成28年度は、用地買収を進めています。



まちなかの幹線道路で交通量が多く歩道整備が不十分

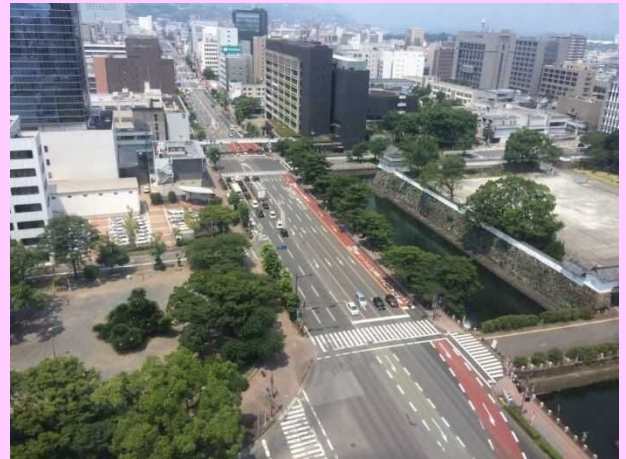
5 道路空間の再生（リボーン）

道路空間の再生（リボーン）とは

道路の拡幅のほか、既存道路幅を利用し交通実態に合わせた幅員の再配分や無電柱化、歩道舗装の再整備、街路樹の見直し、照明のデザインの統一、バリアフリー化などを実施し、都市景観を踏まえた幹線道路の再整備を行います。

国道197号（昭和通り）の県都の顔づくり

国道197号（昭和通り：舞鶴橋西交差点～中春日交差点）において、県都の顔となる幹線道路の再生（リボーン）に向けて、再整備の方針や通行区分のあり方、道路付属物等の意匠などについて、協議会を設置して検討していただいております。



国道500号（別府市鉄輪地区）の無電柱化を推進



景観を損なう電線や電柱



整備後のイメージ

6 屋内スポーツ施設の建設

ラグビーワールドカップ2019へ向け、適切な工程管理を行い、早期完成へ向け整備を行っています。ラグビーワールドカップ開催時には来場者の飲食スペース等としての活用を想定しています。

また、大規模災害時には、隣接する大銀ドームとの連携を図り、現地調整所やSCU機能として活用させ、防災機能の強化を図ります。



屋内スポーツ施設
建設予定地



屋内スポーツ施設のイメージパース図

	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	平成31年度 2019
屋内スポーツ施設	実施設計 本契約 ● 11月 本工事入札公告	躯体工事	屋根工事 内装工事	ラグビーW杯 9/20~11/2 ● 4月竣工 ラグビーW杯 仮設工事



躯体工事



屋根工事



内装工事

(写真は全てイメージ)

7 社会資本の集中的メンテナンス

長寿命化計画に基づいた橋梁補修

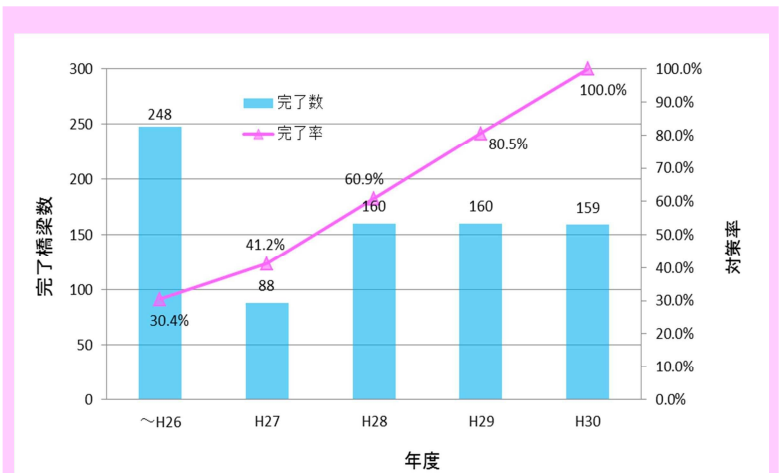
高度経済成長期に建設された橋梁が全体の5割を越え、今後、高齢化に伴う老朽化橋梁が急増することが懸念され、損傷が深刻化する前の軽微な状態のうちに予防保全型の対策を行っていく長寿命化計画に基づき、事業を実施しています。

平成21年度から平成25年度までに実施した1巡目の橋梁定期点検の結果から健全性の診断を行い、早期対策が必要な橋梁を選定しています。

早期対策が必要な橋梁の対策率

1巡目定期点検の結果から健全性の診断を行い、対策が必要な橋梁は815橋となっており、平成27年度までに336橋の対策が完了しています。

平成28年度については、緊急措置が必要な判定の17橋と早期対策が必要な判定の143橋の対策完了を目標としており、対策率としては60.9%になる見込みです。



早期対策が必要な橋梁の対策率

橋梁の損傷・補修事例



鉄筋露出状況（山香院内線：境橋）



ひび割れ注入状況（中村鬼瀬停車場線：篠原橋）

8 建設産業の魅力発信

地域の安心・安全を支える建設産業のイメージアップ

建設産業は、地域の安心・安全を支え、快適な社会を構築するためには欠かせない重要な産業ですが、近年は若年入職者の減少が著しく、建設産業の魅力を伝えるイメージアップの取り組みを進めています。

【高校生向け建設現場体験学習会】



振動ローラーの自動運転デモ



ドローンによる写真測量

産学官の連携の取組の1つとして、県内の土木・建築を学ぶ高校生を対象に現場体験学習会を開催しています。ドローンによる写真測量やICT建機による最先端の情報化施工技術を学びました。(県内4校が参加予定)

【親子と土木のふれあい見学会】



土木のことをもっと知ってもらうために小学生とその保護者を対象としたバスツアーを行っています。H27.11.14(土)稲葉川ダムや大分川ダムの工事現場などで開催しました。今年度は、H28.11.12(土)に中津日田道路のトンネル掘削現場などの工事現場の見学会を開催する予定です。

【土木未来教室などの現場体験学習】



小学生(竹田)転流トンネル現場体験



土砂災害の学習(豊後大野)

各土木事務所において、地域の小学生などを対象に実際の工事現場で建設産業の重要性などを知ってもらう活動を実施しています。